

日時： 平成 29 年 11 月 9 日（木）午後 4：00～

場所： 校長室 記録： 西田 孝規

## 配付資料一覧

- 1 平成 29 年度 大阪府立港南造形高等学校 学校協議会 配席図
- 2 平成 29 年度 学校経営計画
- 3 10 / 1 付中学生調査と志願者数  
遅刻数の推移
- 4 13 期生 進路状況一覧
- 5 意見書及び付属資料
- 6 第 1 回授業アンケート結果概要
- 7 第 48 回全国美術高等学校協議会<大阪大会>概要
- 8 平成 29 年度生徒居住地別人数
- 9 学校案内パンフレット
- 10 学校説明会リーフレット
- 11 第 37 回近畿高等学校総合文化祭大阪大会リーフレット

## 1 学校長挨拶

府教育庁では学校協議会を、来年度から文科省がリーダーシップをとって進める学校運営協議会に移行しようとしている。そもそも大阪府の学校協議会は文科省に先駆けて設置したものであり、大阪府から全国に広める意図である。

平林地区の防災対策については本校は災害時の避難所として大阪市から指定されているため、休業日の訓練が必要との判断から、9 月 24 日に区役所と地域のご代表とで打ち合わせ、10 月 15 日に本校の校門の鍵を開けるところからの訓練を行った（100 人近く of 地域の方が参加）。

中学生の志願状況については、例年 10 月 1 日付けの中学校校長会の調査と実際の志願者の数はほぼほぼ一致しており、隔年現象となっている実態がある。志願者対策としては広報、SNS、制服変更、中学生向けの実技講習会（明後日 11 月 11 日実施）を企画し実施してきた。遅刻者を減少させるために、指導を先送りせず、細かな声かけを行うことで 35% 近く減少させた。例年 11 月が最も遅刻数が多いという傾向があるので、遅刻指導強化月間として、遅刻したその日に指導するテコ入れを現在実施している。

近畿高等学校総合文化祭大阪大会（近総文）の美術工芸部門が来週火曜日から天王寺の美術館で開催される。入選展示される作品数の 3 分の 1 が本校生徒の作品である。また生徒実行委員会の委員長・副委員長も本校生徒が務めている。

11 月 14 日に台湾から芸術科の視察団が来校される。また、来週の 16 日と 17 日に、全国 5 6 校の美術に関する学科やコースがある高校の教員が集まり、全国美術高等学校協議会（全美協）大阪大会を開催する。2 日目は本校が会場となっている。

(事務局) 全美協は1日目迎賓館で総会と研究協議を行い、夜は協賛の大学や企業を招いて情報交換会を実施する。2日目は本校で授業見学を行い、その後研究協議を実施する。本大会には全国の33校64名が参加する。

## 2 会長挨拶

TVで薙刀の高校生を取材していた。また別の番組ではマンガがアスリートを作るという内容で、高校生を取材していた。高校生はきっかけがあると伸びる。そのきっかけがマンガであったことが印象深かった。

久しぶりに大和川の堤防沿いの陶板画を見に行き、今もまだ続けていることに感心した。

ぜひ近畿文も見たい。美術のみならず、芸術の各分野で頑張っている高校生の姿を見ていただけたと思う

## 3 協議

○進捗を総務部から

(事務局) 昨年度末から、学校PRで効果の薄いものを見直しを行った。中学校訪問の廃止や学校説明会を5回から3回に減らし、一方で新たに10月からはほぼ毎週水曜の午後に2年生の領域の授業を見ていただく個別の学校説明会を行っている。これまで2回終わるとともに3組6名の参加者だった。また、DMが伝わりやすくするため透明の袋にして中身が見えるようにした。

11月11日の学校説明会に、本日15時時点で320名の申し込みがある(去年248、一昨年232)。これは非常に多く、うち中学3年生が274名である。

新制服は制服業者の展示会でも評判がいい。ネクタイとリボン、スラックスとスカートを選択制にしている。スカートは親子ひだのチェック柄にしてほかにあまり例がない。

ツイッターのフォロワー数は675名であり、少しずつ増えている。アクセスが多かったのは文化祭の黒板アート、制作風景の動画で2万9千件だった。今後は学校生活がイメージできる内容をツイートしていく。

○プレゼンテーションについて

(事務局) 従来の合評会では、指導者側から評価・指導することが中心だったが、今求められるコミュニケーション能力を意識して、制作中に感じたことなどをまず生徒本人が話し、それに対して他の生徒が質問する形にしている。このやり取りの中で問題点を発見することがある。

社会科でディベートや国語科での発表、英語科で生徒が教師役をするなどの授業も増えている。

(事務局) 美美演では生徒同士で作品について語り合う形を進めている。

○進路について

(事務局) 資料は13期生10月末時点のものである。進学では国公立志願者は例年より少し多く、就職では12名中9名が一次で合格している。今年は公開求人にも挑戦し内定をもらった生徒もいる。

(委員) 大学では出欠状態をパソコンで自己管理できるようになっている。昨今の大学生・高校生は

真面目で休まない。感心している。

(委員) 合評会の時間的な長さはどれぐらいなのか？

(事務局) 担当者によって違うが、制作途中でも行っている。鑑賞型や双方向型でも本人がわかることが大事だと考えている。卒業制作であれば、年間に3回はしている。

(委員) 授業の在り方としてアクティブラーニングが言われて久しい。学びの定着は、講義だけだと5%だが、人に教えると90%になる。「生徒が授業の主体に」という部分は教員の抵抗が大きい。中学校以降生徒たちの学校への不満が大きくなる傾向にあるため、個々のニーズに応えることが大事である。社会や国語で机・いすの形態を変える工夫を感じた。授業観を変えていく必要がある。SNSでの発信もおもしろい。

(委員) ツイッターに上げている生徒主体の授業に様子を紹介してもらいたい。

(事務局) (スクリーンに映っているのは) 兵庫の美術館にいったことを伝えるツイートである。美術館で生徒は4時間集中を切らさなかった。

(委員) 志願者数の増加の原因は？

(事務局) 校外での学校説明会でも手ごたえはあった。しかし、これがという決定的なものもない。複合的な要因ではないかと考えている。

(委員) 私学で美術コースが結構ある。大阪は美術を勉強したい子が多いのかもしれない。

## 4 報告及び連絡

### ○第1回 授業アンケートについて

(教頭) 総合造形科を志願してきている生徒たちなので、造形科に肯定的な意見が圧倒的に多い傾向がみられる。保健体育、数学は中学校での成績が低い生徒が多いのであるが、高校でのアンケート結果では比較的肯定率が高い傾向にある。普通科目が生徒の実態に応じた授業を行えていることの表れではないかと思う。

### ○居住地別人数について

(教頭) 前回の会議での委員の求めに応じて作成してみた。大きな特徴は見られないが、府全域から来ていることがわかる。

(校長) 旧5学区は以外に遠いが45人来ている。中央線とコスモスクエアの乗り換え1回で来られるからではないか。今後この方面からの志願者増が期待できる。

### ○その他

(委員) 防災訓練について。プレハブの防災倉庫では明らかに不足だと感じている。考えないといけない。地域のクリーン作戦も港南造形高校まで伸ばして欲しいと要望している。

(教頭) 最近メディアに取り上げられた(陶板ロード、隣の人間国宝)

○次年度の協議委員について

(教頭) 配付の用紙を用いるなどして、それぞれに次期委員の候補を推薦していただきたい。

同じ内容をメールでいただいてもよい。